

課題

教育分野における 図書・教材のバリアフリー



事業のねらい

①読書バリアフリーに関する必要な連携のあり方や、そのはじめかたについて検討

- グッドプラクティス(GP)事例収集からバリアフリー図書の製作・提供の方法、それらの促進に向けた連携方法を検討する他、過去の調査から、学校間で読書バリアフリーの取り組みに差がみられたため、はじめかたの枠組みの整理を実施

②一般への情報公開

- ①で得られた知見を広く啓発するため、公開シンポジウムやウェブサイトで情報公開



<https://accessreading.org/conso/>

© 学校図書館等における読書バリアフリーコンソーシアム

実施内容

➤ 今年度のテーマ 「読書バリアフリーのはじめかた」

- 4団体にヒアリングを実施
- 関係者会議で読書バリアフリーの取り組みの具体的なアクションを精査
- 上記結果を整理し、ウェブサイト等で公開

①関係者会議の開催



- 全2回オンライン開催
- 今年度テーマに関する情報提供、ヒアリングから見出された現場での課題、FAQについて議論

②オンライン公開シンポジウムの開催



- 後日配信希望者含む347名申込、当日143名参加
 - GP事例3件、本事業ウェブサイト紹介、参加者からのQ&A
- 事後アンケート：読書バリアフリーに向けた支援方法等についての理解が深まったか(105件回答)
→とてもそう思う67件(68.3%)
→と思う38件(36.2%)

③ウェブサイトの充実



- GP事例2件追加
- 新規メニュー「シンポジウム」で過去の公開シンポジウム内容を公開！
- 立場ごとの「はじめかた」、「リンク」も追加

成果

●「読書バリアフリーのはじめかた」の提案

- GPの収集・分析・整理やヒアリングを通して、学校長（学校図書館長）、特別支援教育コーディネーター、学校司書、公共図書館、地域の方等、異なる立場からの読書バリアフリーのはじめかたを分類し、「りんごの棚」など具体的なアクションに関する事例も紹介

●読書バリアフリーの取り組みに関する情報の集約と公開

- 収集し整理した情報を公開シンポジウムで一般公開。
- 特設ウェブサイトにて、追加のGP事例紹介の他、過去の公開シンポジウムのアーカイブ配信、読書バリアフリーのはじめかたの参考や便利なリンク集のページを新設。



これから読書バリアフリーの取り組みをはじめてみる他の学校図書館にとって参考になるよう情報提供



- ✓ 障害等のある児童生徒・学生の、より広範な図書や資料へのアクセス拡大に期待

課題

- 2019年「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」以後、様々な体制整備が進む
- 障害者の情報リテラシーを前提とするが、ICT活用のための障害者への支援は手薄
- 前年度当事業の調査で人材、予算確保の課題が明らかになった



事業のねらい

「読書バリアフリーコンソーシアム テクノロジーハブ」を結成し、ウェブサイト、図書館イベントを通じて障害者の読書とテクノロジーに関する情報収集・発信を行い、個別のニーズ、メディア、テクノロジーに関するアセスメントやフィッティング、利用支援の情報拠点となることを目指す。

実施内容

コンソーシアムと関係者協議会を結成し、取組内容に関するウェブサイトの運用、図書館総合展の出展、アンケート調査を行った。

①機器貸与に関するアンケート実施



支援団体・開発事業者計1,895箇所を対象に読書支援機器の所有と貸出状況を調査

②関係者協議会・定例会の開催、図書館総合展の出展



講演、ポスター展示、ブースにて機器展示と読書支援機器貸与に関する提案書の提示

③ウェブサイトの運用、動画コンテンツ作成



- ・行政説明（文部科学省）
- ・読書バリアフリーコンソーシアムの取組み（野口委員）
- ・読書の際に使用できる支援機器やアプリ（清田委員）
- ・図書館総合展振り返り（小林委員）
- ・機器貸与実態調査の結果（宮城委員）
- ・読書に困難を抱える方への解決策と実践（氏間委員）

成果

○アンケート結果

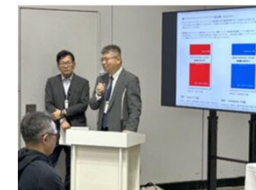
支援団体、開発事業者による読書支援機器の貸与の現状と課題が明らかになった。



実施時期：
2024年9月～10月
回答数：
94箇所

○関係者による議論

関係者協議会（4回）、図書館関係・ICT利用支援者による定例会（6回）、図書館総合展ブースに図書館関係・一般企業・出版関係者等が来場。



実施日：
2024年11月5日～7日
参加者数：
講演35人、ブース476人

○ウェブサイト訪問数

(2024年3月開設)

2024年度
(4月～2月)

2,389 回



読書バリアフリーコンソーシアム
テクノロジーハブ

令和6年度「読書バリアフリーコンソーシアム」

(高知県教育委員会)

課題

○オーテピア高知声と点字の図書館及びオーテピア高知図書館で読書バリアフリーサービスを行っているが、県内全域には行き届いていない。

○当事者及び関係者に読書バリアフリーが十分認知されていない。



事業のねらい

読書バリアフリー計画を策定し、県民に対しオーテピア高知声と点字の図書館及びオーテピア高知図書館の取組を普及するとともに、県内の市町村における読書バリアフリーの取組を推進する。

実施内容

読書バリアフリー法に基づき、高知県読書バリアフリー計画を策定。
関係者協議会にてヒアリングを行い、読書バリアフリーについて広報物を作成・配付し普及啓発を行う。

①高知県読書バリアフリー計画策定検討委員会の開催

当事者団体、図書館関係者などからなる検討委員会を設置し開催。

②関係者協議会の開催

広報物について関係者のヒアリングを実施。

③広報物の作成

②でいただいた意見をもとに小冊子、リーフレット、ステッカーを作成

④市町村職員等への説明



関係者が集まる研修会で県計画及び読書バリアフリーについて説明

成果

○高知県読書バリアフリー計画の策定

(令和7年1月策定)



○広報物の作成・配付



リーフレット



ステッカー

小冊子

県民向け、当事者及び家族向け、啓発用ステッカーをそれぞれ作成・配付。いろいろな場所や機会に活用してもらうことで、読書バリアフリーの周知を図る。

